

<b>学校の概要</b>		学校名	茅野市	立 泉野小	学校	学校長	下平 香代子	児童生徒数	95 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称		泉野小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		
		地区コミュニティセンター長 民生児童委員地区会長 主任児童委員 財産区議長 保護司 交通安全指導員			地域コーディネーター		1 人			
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日		5月19日(木) 9月2日(金)・・・中止 11月22日(火) 2月1日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
								地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>										
学校教育目標		いずこにあっても泉野人(いずみのびと)として愛され信頼され尊敬される生涯学習者としての資質の基礎を養う ～スローガン： ひとりが輝く みんなで輝く～								
地域と共有された育てたい子どもの姿		(知)自分の考えをもち、伝え合い、共に学び合う子ども (体)運動に親しみ、健康な生活をおくることができる子ども (徳)友達とよさや違いを認め合い、相手を思いやり、進んであいさつする子ども (地域に学ぶ)泉野のひと・もの・ことを通して生き方を学び、ふるさと泉野を愛する子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2 学校運営への必要な支援について		○								
3 地域の実情や課題について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		30 人	
							参加者延べ人数		120 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		
		清掃			ICT			学習ボランティア		
		土日・長期休業教科・体験学習			地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		
		人権教育		○	国際理解			託児		
		クラブ、部活動			総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		
		給食			防災学習(避難訓練)			遠足・登山		
		休み時間						放課後教科・体験学習		
								キャリア教育(職場体験を含む)		
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		見守り隊の方による防犯講話(7月15日)			榎木廻り舞台「秋の会」(10月1日)			読み聞かせボランティア(毎月)		
		<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
榎木廻り舞台「秋の会」について 廻り舞台実行委員会・地区コミュニティ運営協議会・ふる里づくり推進協議会・泉野地区区長会が主催し、泉野小学校・泉野保育園・榎木区の共催で行われた榎木廻り舞台「秋の会」。地域の方々の「廻り舞台で小学生に発表させてあげたい」との思いと、児童の「表現する場」や地域の方とのつながりを大事にしたいという学校側の願いを共有し、今年度は、3年ぶりに廻り舞台を会場に実施することができた。小学生の発表時間を長く設定したり、コロナ禍に応じた一般席の設置を考えたりするなど、小学生を中心に考えての実施となった。また、実行委員有志の方がボランティアとして準備・運営に協力してくださったり、民謡の指導や缶バッチづくり指導など、児童が関わられるような取り組みや指導をしてくださったりして、1～3年生にとっては初めての、4～6年生にとっては久しぶりの、廻り舞台での発表を行うことができた。 児童は、廻り舞台での発表に向けて、よりよい発表になるよう一人ひとりめあてをもち、発表原稿や必要な小道具などを作ったり、互いの発表を見合い、アドバイスし合ったりするなど、個々の課題解決に向けて、主体的に考え、活動し、追究することができた。										
<b>育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題</b> (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)										
・中心となってくださっている方々は、活動の立ち上げ当時から関わってくださっている方が多く、高齢化が進んでいるが、様々な立場の方が関わり、少しずつ形を変えながら、よりよいあり方で継続させようとしてくださっている。 ・学校としての願いや要望を、コミュニティ運営協議会のコーディネーターが繋いでくださっており、大変ありがたい。学校も、地域と共に歩んでいく方向を、今後も考えていきたい。										